

# 広島大学学術情報リポジトリ

## Hiroshima University Institutional Repository

Title	非就業時の経験がワーク・エンゲイジメントに与える影響について
Author(s)	今井, 裕介
Citation	広島大学マネジメント研究, 22 : 81 - 81
Issue Date	2021-03-27
DOI	
Self DOI	
URL	<a href="https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00050782">https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00050782</a>
Right	Copyright (c) 2021 by Author
Relation	



# 非就業時の経験がワーク・エンゲイジメントに与える影響について

M171199 今井裕介

## 1. 研究の目的

本研究の目的は、対人援助職と一般企業従業員の非就業時の経験が、ワーク・エンゲイジメント（以降、WE）やバーンアウト（以降、BO）に与える影響を検証する。

非就業時の経験に関する変数として、リカバリー経験、リアタッチメントに焦点を当てる。リカバリー経験（心理的距離、リラックス、熟達、コントロール）のうち、心理的距離とWEとの関連に着目する。対人援助職においてはWEと心理的距離に正の関係がみられることを報告した知見があるが、それ以外の職種ではWEと心理的距離は負の関係にあるという研究がある。対人援助職と、それ以外の職種とでは、WEに対する心理的距離の役割が異なる可能性があり、検証するため以下の仮説を立てた。

仮説1 a 対人援助職においてはWEと心理的距離は正の関係にあるだろう。

仮説1 b 一般企業の職種においてはWEと心理的距離は負の関係にあるだろう。

WEを高める要因としてリアタッチメントという概念が注目されている。リアタッチメントとは勤務時間後の休暇後に自分の仕事に精神的に再接続するプロセスと定義される。リアタッチメント効果が認められるか検証する。BOに対してリアタッチメントの効果が認められるかも検証する。

仮説2 a リアタッチメントはWEを高めるだろう。

仮説2 b リアタッチメントはBOを低めるだろう。

先行研究ではリカバリー経験のうちの心理的距離、リラックスとBOとの関連を調べ、BOと心理的距離、リラックスは負の関係にあることが認められた。本研究では、リカバリー経験すべての下位尺度とBOとの関連を調べる。

仮説3 a BOとリカバリー経験の下位尺度すべてに負の関連があるだろう。

先行研究において、対人援助職以外でもBOが生じ得ることが確認されている。本研究では、一般企業従業員の業務内に占める顧客とのやりとりのパーセンテージに着目した。

仮説4 a 一般企業従業員において、業務内に占める顧客とのやり取りが高くなればなるほどBOを高めるだろう。

残業時間がWE、BOに与える影響について探索的に検討する。

仕事から離れることができないことは、回復と疲労の両方の面でマイナスの結果をもたらすことが予想される。次の点について探索的に検討する。

検討点1 非就業時に仕事の準備をしたり、書類を作成することはWEを低めBOを高めるだろうか。

検討点2 残業時間の長さはWEを低めBOを高めるだろうか。

## 調査対象者

本研究は対人援助職と一般企業従業員に調査を実施した。対人援助職として、看護師及び、社会福祉法人従業員から回答を得た

## 結果と考察

まず、対人援助職の心理的距離とWEの関連における仮説1 aは支持されず、有意な関連は認められなかった。一般企業従業員では仮説1 bは、有意な傾向であるものの、支持された。

リアタッチメントとWEの関連において、仮説2 aは、対人援助職、一般企業従業員の両方において支持された。仮説2 bは対人援助職のみで支持され、一般企業従業員では支持されなかった。

BOとリカバリー経験の関連について、仮説3 aは対人援助職では、熟達が負の関連を、心理的距離が正の関連を示し、リラクセーションとコントロールは有意な効果を示さなかった。仮説の一部が支持された。一般企業従業員においては、リラクセーションが正の関連を、熟達経験とコントロールがそれぞれ負の関連を示し、心理的距離のみが有意な関連を示さなかった。こちらも仮説は一部支持された。

一般企業従業員の業務中に占める顧客とのやり取りがBOに与える影響について検証した。その結果、仮説4 aは支持された。業務中に占める顧客とのやり取りの多さはWEを低めた。一般企業従業員においても、顧客とのやり取りが多い職種とそうではない職種とでは、メンタルヘルス対策において異なった対策をとる必要がある。顧客とのやり取りが多い職種は、対人援助職同様BOしやすくなると考えられ、他の職種よりも精神的なケアが必要になるかもしれない。

非就業時に仕事を行うこと及び残業時間がWEに与える影響について、検討点1として、非就業時に仕事の準備をしたり書類を作成することの影響について、WEに関して対人援助職、一般企業従業員どちらにも影響を与えなかった。BOに関しては、対人援助職においてバーンアウトを高めたが、一般企業従業員においては影響を与えなかった。これらの結果から、対人援助職が非就業時に仕事の準備をすることはBOの原因となる可能性がある。

残業時間がWE、およびBOに与える影響について探索的に検証を行った結果（検討点2）、対人援助職において月間残業時間はWEを有意に低減させる効果があったが、一般企業従業員においては有意な効果はなかった。BOに関しては、対人援助職においては月間平均残業時間がBOを有意に高めたが、一般企業従業員においては有意な効果は認められなかった。